みくにだより

No.760 令和７年４月１日発行

「園内で咲く桜花は」

お子さまのご入園、ご進級心よりお祝い申し上げます。３月中旬から気温が上昇し、子どもたちの新年度を祝うように桜がちょうど開花しました。開花とともに新年度のスタートです。新入生の方はこれから、そして進級組の方は今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

春は、花を使った季語が多くあります。その一つ、桜花爛漫。「桜の花が満開に、美しく咲き誇っている様子」……そろそろ見られるでしょうか。皆さんは、桜花爛漫な山桜を見たことがありますか。いくつもの品種、濃淡の色の違いや新緑が作り出す見事なパッチワーク。わたしは写真や映像でしか見たことがなく、いつか実際に見てみたいと思っています。ところが、園内での桜花爛漫は見たことがあります。どういうことでしょう。それは……子どもたちです。木々が一本一本自分の色を出して堂々と咲いている様子は、子どもたちのはじけるような笑顔、集中して取り組む真剣な表情、「いやだいやだ」と年齢らしく自分を一生懸命に表現する様子……一人ひとりのさまざまな様子が、わたしにとっては桜花爛漫な山桜と同じように見えます。今年度も一人ひとりが自分らしく過ごし、どんな桜花爛漫な様子が見られるだろうかと楽しみです。

一人ひとりが安心して自分らしく過ごしてほしいと願い、わたしたち保育者は常に最善を考えて子どもたちと関わります。かける言葉、表情、教具(玩具)、目線、立ち位置……。常に考え、選択の連続です。皆さん、子育てもそうでありませんか。子育ては尊く、一生懸命やっていても結果としてすぐ見られず大変に感じることもあったかと思います。だからこそ保護者の方と一緒に見守ったり成長に気づいたり、時には一緒に考えながら、伴走していきたいと、わたしは思っています。お子さまのさまざまな姿を「”今”しか見られない」と肯定的に受けとめ、できれば、保護者の方と子育てを楽しみながら伴走することがわたしの願いです。何かありましたら一人で悩まずいつでもお声かけください。

そして、こども園は幼い子どもたちが自分を成長させるために集団生活を送る大事な場です。全職員一丸となって、お子さま一人ひとりを大切に、丁寧に過ごしてまいります。今年度も園の教育保育にご理解ご協力をお願いいたします。

４月は環境が変わり、心身ともに負担や疲れが出やすい時期です。お体に気をつけてお過ごしください。さて、このように園だより冒頭ではわたしが感じた子どものすばらしさや皆さまにお届けしたいことなどを綴ります。もしよろしければお付き合いいただけますと幸いです。みくに学園が大事にしている「考える」。子どもたち、保護者の方そして先生たちも、それぞれらしい花を咲かせられるよう、わたしも一つひとつをよく考えていきます。